
子分の行方

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

子分の行方

【Nコード】

N8005A

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

原作47巻の続き。Mr. 正影の事件のあとのお話です。平次と和葉はどうなってしまうのか・・・？

これは、原作47巻のお話の続きである・・・

平次の「和葉は、オレの子分」発言から約1時間後のこと。

平「なあ、和葉あゝ・・・何をそないに怒ってんねん!？」

和「教えたらへん!自分の胸に手を当ててよく考えてみい!」

未だに、和葉の怒っている理由の分からない平次・・・全く、これほどに鈍感な男がこの世に存在

しているとは・・・世界中捜してもこの男1人ぐらいではないだろうか・・・?

いや、もう1人いるか? (笑) (誰か分かりますか?)

平「あかんねん・・・何に対して怒ってるんか、胸に手をあてても腰に手をあてても分からのや・・・」

和「・・・」

和葉は無視を決め込んだらしい・・・。

平(しゃあない。ここは工藤に・・・いや、待てよ? あいつには、あかん。また、ガキにガキ言われるわ。

どないしたらええねん!!)

1人焦っている平次。それを横目でチラチラ見ている和葉。はたから見ると何やら怪しい感じである。

和「・・・平次？あんな・・・明日な、買い物一緒に行かへん？」

平「ああ・・・別にええけど。何か買いたいもんあるんか？」

和（そんなん、平次と一緒に出かけたい口実に決まってるやん！もう、この鈍感男！！）

平（何をそないに怒ってるんや・・・？表情がなんか険しい気いすんねんけど・・・）

さてさて、そんなこんなで翌日。約束通り一緒に買い物中の2人。しかし・・・

平「和葉あ！何やねん！この荷物の量はあ！」

そう、口実とはいうものの、かなりいいものがたくさんあるため、大量に買いこんでいるのである・・・。

和「ええやんか！どれも欲しいねんから！」

平「ええことあらへん！この荷物、誰が持って帰るねん！」

和「そんなん、平次に決まってるやん！こういう時は、『オレが持ってやるよ』とか言うもんやねんで！」

平「んなもん、法律できまっとるわけちゃうやろ！？それに、これ、オレ1人で持って帰れるとでも思っとるんかいな！」

そう、荷物の量はすでに雪崩の起きそうな勢いで積み上げてある。

話している平次と和葉の顔が見えない。

和「法律で決まってるか決まってへんかは、関係あらへん！ココは、親切かどうかというだけや。ったく……。ガキじゃあるまいし、ほら、はよ持ってえや！」

平「何やねん……。お前までガキ、ガキって……。工藤といい、お前といい……。オレはガキやあらへん！」

和「えっ！？工藤くん、あんたのこと、ガキって言うたん？」

平「あ？ああ……。昨日『和葉がケロケロ笑ってるとむかつくんや』って言うてたら、あいつ、おれのこと『服部……。お前、ガキだな……。』とか、言いよるから、怒って……。そつ、そう、電話切ったんや！」

平（あぶなく……。さすがに、つまみあげたとは言えへんよな……。・・・）

平次は1人で焦っていた……。一方……

和（工藤君は、分かってるんや……。さすがやなあ……。・・・）

和葉はニヤニヤしていた。

平「何、お前ニヤニヤしてんねん！気色悪う……。・・・」

和「工藤君は、さすがやなあ……。・・・て思て。しっかりと分かってくれてはるもん！ガキの平次と違ってな！」

平「はあ！？何や、お前まで……。工藤、工藤言いやがって……。もうええわ！」

平次は、荷物を持って行っしまいました。

和「なんや？結局、荷物全部持って行ってくれるんやん！工藤君マジックやな。ありがとう……」

和「平次いゝ！！待ってえなゝ！！」

和（この先、いつまで子分が続くか分からんけど……。今はいいかな？）

終わり

（後書き）

初めまして。ペロコといいます。初小説で、意味の分からないところとかあると思いますが・・・。

ここまで読んでくれてありがとうございます。

この話は、原作を読んで、テレビの放映を見て、新一と蘭は、メルでのその後・・・みたいなのがあったけど、平次と和葉はどうなったのかな？と思い、書いた話です。

関西弁で、変なところは、多分ないと思いますが（うちも関西人）もしあったら、教えてくれると嬉しいです。

あと、もう1人の鈍感男・・・。誰か分かりましたか？

感想などいただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8005a/>

子分の行方

2010年10月10日02時33分発行